

答えは自らが「創る」もの

経済学部長 内山 哲朗

「未知の大海」である社会へと漕ぎ出すときがやってきました。社会という場で皆さんがこれから向き合わなければならない数多の問題・課題とは、ほとんどの場合、「正解」がどこかに潜んでいるといった性質のものではありません。卒業後は常に、あなたならどう考



えるか、を求められる問題・課題ばかりに出会うという過言ではないでしょう。専修大学で学びえたものを最大限に活かしながら、自分ならどう考えるかという姿勢を決して忘れず、「未知の大海」を「したたかに」生き抜いていってほしいと願っています。

高い遠い目標に向かって

法学部長 白藤 博行

「青年の射る矢の的は遙かな未来におくべきである。高い遠い目標に向かってひたすら努力するところに、青年の美しさがある。」——インターハイ・国体を目指して弓道の練習に明け暮れた高校時代の私の座右の銘である。とかく目前の利害に囚われがちな人間にとっては難しい格言だが、



大学を卒業する君たちにも、贈りたい。これから飛び込む社会は、地球儀を回せばあちこちに孤児があふれる混沌とした世界である。知らざるを識り、問うを学んだ大学の経験を活かして、見えないものを見て、聞こえない声を聴き、感じられないものを観る努力をひたすら続けてほしい。

準備は整っています

経営学部長 馬場 杉夫

卒業おめでとう。夢と不安が混在していることでしょう。皆さんが、イメージしたキャリアに近づきたいのであれば、明日から5年先までの仕事に向けた準備を心掛けることをお勧めします。準備には、仕事に必要な道具や服装を整えることだけでなく、下調べ



や資料の作成、ネットワーク作りや健康管理まで含まれます。仕事の成果は80%準備で決まります。ここで難しいのは、直近と遠い将来の準備に同時に取り組むことです。実現に向けて、皆さんの工夫が不可欠です。大学を卒業したことは社会人としての準備が整ったことを意味します。皆さんが自分の期待以上の幸せな人生を歩めるよう応援しています。

チャレンジし自ら鍛える

商学部長 佐々木 重人

皆さんにとって、専修大学で過ごした4年間はどのように表現できるだろうか。何かをやり尽くしたと胸を張って自問自答できる諸君は、実に見事である。一方で、心のどこかで何かひとつ物足りない気持ちや、隠せないという諸君も幸いといえよう。なぜなら、そのことは、ま



だやり切っていないと思う自分自身の今を謙虚に見つめることにつながっているからである。そうした気持ちは、これからの新生活をどのようにデザインするべきかを考える基礎ともなるであろう。学生時代とは異なる社会人としての活動のなかで、自らを鍛え成長させるチャレンジをこれからも続けてほしい。卒業おめでとう。

よき世界を「言葉の力」で

文学部長 廣瀬 玲子

文学部で学んだことは一人ひとりが、共通するのは言葉で表現し伝えることの大切さ。ゼミナールで意見を交わしあい、卒業論文・卒業研究を完成させた皆さんには、困難に直面しても、それを冷静にとらえて立ち向かい、乗り越えていく力が身についているはずですよ。



いいアイデアが浮かんだとき、変えたほうがいいことに気づいたとき、まがっていると思うとき、勇気を出して言葉を発してみてください。すぐに共感が得られなくても、話し合ううちに、もっといい結論が導き出されることもあります。身近なところから、この世界をよりよいものに変えていく。そんな人になってほしいと願っています。

「自己教育力」を発揮して

ネットワーク情報学部長 江原 淳

皆さんの多くが入学された当初は、震災の影響でエレベーターも冷房も不十分な環境でした。その中で、自分から動いて他の人と協力し何かを達成していかないとけないカリキュラムを、見事に成し遂げて卒業されました。この2011年はLINEがスタートした年でもあります。わず



数年で情報インフラが変化してしまう世界です。これまでの知識は、ベースにはなりますが、それが一生通用するはずもなく、関心ある領域で自分を生涯教育し続ける「自己教育力」が皆さんの前途を切り開いてくれます。ネットワーク情報学部を卒業された皆さんの、一番の優位性はこの力です。各分野で十分に発揮し、少しでも目標を実現してください。

年経て輝く友情と思い出

人間科学部長 山上 精次

人間科学部では実験・実習科目が多く、それらの科目ではグループでの協同作業が求められるために、人間関係を維持・形成して課題に立ち向かうことの大切さを体験、体得したと思います。学生時代にグループ作業の中で苦楽を共にした仲間が生涯の友人となります。



しかし、大学時代の仲間との思い出と友情だけは、逆に年月を経てもますます輝きを増します。友だちを大事にしながら人生を歩んでください。

論文作成過程の努力が財産

経済学研究科長 原田 博夫

今回の修了者・学位取得者は修士17人、博士後期2人の計19人。年齢別では、20代4人、30代9人、40代4人、50代1人、70代1人と多彩な構成です。これも、本研究科が平成12年度以降進めている「社会に開かれた大学院教育」の成果のひとつだと考えています。大学院での成果は博士論文、修士論文、あるいはリサーチ・ペーパーとなって結実したわけですが、その過程での努力もこれからの人生で大いに財産となるでしょう。



同時に、大学院時代に学問研究に取り組む、先人の膨大な知的蓄積の一端に触れたことは、これからの人生における謙虚さに思い至ることにもなったのではないのでしょうか。皆さんのさらなる精進を期待します。

「知」に裏打ちされた「価値」

法学研究科長 平田 和一

大学院の課程を修了され、学位を取得した皆さん、法研究科のスタッフを代表し、心よりお祝いを申し上げます。論文を完成させ、学位を取得し、今日の目を迎えられた皆さんは、自らの真摯かつ地道な努力の先の目的達成と、それに伴う喜びに感慨深く浸っていることでしょう。何が根源的価値なのか問われている時代に、法研究科という場で、自らの目的達成と関わり、皆さんが発見したであろう「知」に裏打ちされた「価値」は、皆さんがこれから身を置く新たな環境での当該「価値」のさらなる検証と相まって、皆さんの社会における立ち位置をしっかりと見据えるための「よすが」となることではないでしょうか。今後の皆さんの活躍を期待します。



大学院の課程を修了され、学位を取得した皆さん、法研究科のスタッフを代表し、心よりお祝いを申し上げます。

普遍的な価値を追究しよう

文学研究科長 道家 英穂

大学院の課程を修了し学位を取得された皆さん、おめでとうございませう。学問研究には対象に向き合う真摯な姿勢、研究を遂行する熱意、精緻な分析能力と冷静な批判精神が必要です。皆さんは本学大学院でこれら自身につけたことでしょうか。昨今、異論に耳を傾けようとせず声高に自説を主張する風潮が蔓延しつつあります。自国の文化、異文化を共に尊重しつつ、冷静な批判精神を持って普遍的な価値を追究する学問的態度が社会全般で求められています。



今後さらに研究を続ける方、教育に携わる方、実社会に出る方と進路はさまざまですが、それぞれの場でも学問的態度を貫き、伝えていく使命があると思います。ご活躍を期待しています。

大学院での蓄積を生かそう

経営学研究科長 廣石 忠司

学位を取得し、晴れて修了式に臨むことができた諸君、おめでとう。さて、これから諸君は社会に出ることになる。社会の目は温かいものばかりではない。学部卒業者と違うところはどこか、それを自覚し、周囲を納得させることが諸君らに必要とされる。大学院で学んだことにより何が変ったのか、きちんと認識していただくか。そしてその大学院時代に蓄積したものであって大学卒業者と「差異化」をはかることができているだろうか。仮に「差異化」できていないなら、何のための大学院での研究生活だったかが問われねばならない。



本学大学院で学んだことを反芻して「世にさきがけて」もらいたい。

現実を直視し柔軟に考える

商学研究科長 上田 和勇

大学院の学位を取得された皆さん、おめでとうございませう。今後は、これまでの研究や体験を通して、社会的に問題となっている諸事象の解決に邁進されることを願っています。その際、次の3点を皆さんへの贈る言葉にしたいと思います。第一は、これまでの志、ビジョンを持ち続けて精進することです。各人のビジョンが困難に直面した時、背中を後押ししてくれませう。第二は現実直視。現実から目をそらさない勇気をもって対応することです。最後に、柔軟な思考です。社会問題は多様な要素で生じており、構造的な思考では解決が困難です。こうした諸点が、環境変化に柔軟に適応できる心身ともに強い皆さんをつくることではないでしょうか。今後のご活躍を期待しております。



さらなる知識を蓄え、応用できる実力を確認する作業に入ります。そこで見つけたような疑問でも残さないという姿勢が重要で、資料に頼るだけでなく教員に尋ねてください。知識は法的事実を活かして、はじめて意味が出てきます。自信をもって問題に臨んでください。

知識を蓄え応用できる力を

法科大学院長 石村 修

法科大学院での学位(法務博士)を修得され、10期目の修了生になられた皆さんに、スタッフを代表してお祝いを申し上げます。しかし、専門職としての法律家になるためには、すぐ目の前に迫っている「司法試験」に合格しなければなりません。今はそのための準備期間に入っています。精神的・肉体的な緊張をもって残された日々を過ごしてください。



法科大学院での学位(法務博士)を修得され、10期目の修了生になられた皆さんに、スタッフを代表してお祝いを申し上げます。

学部長・大学院研究科長・法科大学院長からの「贈る言葉」